

{ 日植防シンポジウムから }

愛知県におけるマイナー作物の病害虫防除の現状と課題

—多様な需要に応えるために—

愛知県農業総合試験場 ^{ふじ}藤 ^た田 ^{とも}智 ^み美

はじめに

愛知県（以下、本県）は、しそや食用ぎくをはじめとするつまもの類、いちじく、ふき等のマイナー作物（目安として国内生産量3万トン以下の農作物）の生産が盛んであり、地域の基幹作物の一つとして位置付けられている作物も多い。地域特産作物として生産振興するためには生産の安定化を図ることは重要な課題であり、的確な病害虫防除が必要不可欠である。2003年3月の農業取締法改正施行を機に、マイナー作物に対する農業登録適用拡大（以下、適用拡大）が全国的に進められ、本県でも数多くの適用拡大試験に取り組み登録につながってきた。近年は総合防除の観点から化学農薬以外の防除対策も導入されつつあるが、多様な需要に応えるためには化学農薬による防除も欠くことはできない。このような状況の中、依然としてマイナー作物は使用できる登録農薬数が不足しており、病害虫発生抑制に苦慮している。

本稿では、本県におけるマイナー作物の生産状況と病害虫対応の問題点、適用拡大の取り組みと課題、今後の展開方向について紹介する。

I 愛知県農業の特徴とマイナー作物の生産状況

本県は農業産出額約3,000億円、全国第8位（2021年度）の農業県である。1年を通じて比較的温暖な気候に恵まれ、古くから木曾川、矢作川、豊川の豊かな水を利用し大規模な農業用水の開発整備を行っており生産基盤も整っている。本県農業の特徴として、産出額が全国2位（2021年）のキャベツをはじめとする露地野菜に加え、ガラス温室やビニルハウスを利用した花きや野菜の施設栽培が盛んで、農業産出額に園芸作物の占める割合が全国平均より高いことである。

本県では、園芸作物の中でも多彩なマイナー作物を生

産している。マイナー作物の主要な品目の2021年度の産出額は、しそ（大葉）が130億円、いちじくが14億円、さやえんどう（未成熟）が11億円、ふきが10億円、食用ぎくが8億円となっている（表-1）。このほかにも、しそ・食用ぎく以外のつまもの類（きく葉、食用花類、ハーブ類等）の販売高が約24億円（2021年度愛知県経済農業協同組合連合会（以下あいち経済連）調べ）で、マイナー作物の産出額合計は約197億円と、キャベツの181億円を上回っており、本県農業において重要な位置を占めている。主なマイナー作物とその生産地域は図-1のとおりである。特に豊橋市、豊川市、蒲郡市を中心とする東三河地域ではつまもの類をはじめ多種多彩なマイナー作物の生産が盛んである。

II マイナー作物における病害虫対策の問題点

現状、マイナー作物の安定生産のためには、病害虫対策に農薬は欠くことはできないが、以下のような問題点がある。これらを解決するため、生産振興の観点からマイナー作物の適用拡大試験を県が取り組むこととしている。

1 登録の現状における課題

マイナー作物では農薬の登録自体がない、または対象病害虫に対し登録のある農薬が極めて少ない、ローテーション防除ができないといった事例が多い。

2 「つまもの」の特性上の課題

本県で多く生産される「つまもの」は生産物そのものを料理に添えて使用するため、調理や加工をする野菜等以上に病害虫による害のないものが求められる。商品として収穫する部分へ直接被害が及ぶ病害虫の防除は不可欠である。また、業務等の需要に応えるため周年や長い作期で施設栽培をしている作物が多く、病害虫が発生しやすい環境にある。

3 適用拡大を行う場合の課題

マイナー作物へ適用拡大する場合、次のような課題がある。①生産量はわずかであり農薬の使用量が少ないた

Current Status and Issues of Pest Control for Minor Crop in Aichi.
By Tomomi FUJITA

（キーワード：マイナー作物、農業登録適用拡大、病害虫防除）